各地の自然災害で被災された方々、戦禍の中にある方々に、心からお見舞い申し上げます。
神様の慰めと助けがありますように、お祈りしております。

## 教会からのオススメの一冊

### 「大草原の小さな家で
ローラ・インガルス・ワイルダーの生涯と信仰」

スティーブン・W・ハインズ・著　中嶋典子・訳
（いのちのことば社フォレストブック）

「大草原の小さな家」という小説をご存知でしょうか。主人公のローラ・インガルスが自身の半生を振り返って書いた自伝的児童作品です。

時は1860年代のアメリカ開拓期、西部に移り住んだインガルス一家が、様々な体験を通じて、たくましく、誠実に、そして愛を育みながら生きていく様子が次女ローラの視点から、活き活きと描かれています。

今回ご紹介する「大草原の小さな家で」は、クリスチャンの視点から、ローラの著書をとらえた書籍です。中でも印象的なのは、ローラの娘ローズの役割に着目していることです。ローラが執筆していた当時、ローズはすでにプロの作家でした。そんなローズが、母の執筆活動を積極的にサポートしていたのだろうと、本書の著者は述べています。母と娘の間にありがちな意見の食い違いや衝突はあっただろうとしつつも、ローズは、かけがえのない思い出を描こうとする母の気持ちと、母の中に確かに受け継がれている家族の愛と信仰を理解し、寄り添ったのではないか、と考察しています。このような親子の絆が形となって、小説「大草原の小さな家」は世に出されたのでしょう。本書は、現代では見失われつつある家族の姿を知る一助になるのではないかと思います。

本書には、他にも細かく調べられた「大草原の小さな家」執筆の背景が描かれています。ケーキやパン、スープやピクルスなど、小説に登場する料理を実際に台所で作ってみたというレシピが載せられている点も、見どころの一つです。ぜひ本書を手に取り、「大草原の小さな家」が伝える世界に思いを馳せていただきたいと思います。

## Question 15　教会によせられた質問にお答えします。

**先日教会の前を通りかかったら、お葬式をしていました。教会のお葬式って、どんなものですか。**

教会のお葬式は、故人を天国にお見送りするもので、賛美歌を歌い、聖書のメッセージで列席者が神様からの慰めを受ける、とても大切な時です。

**仏式では香典や焼香をしますが、キリスト教ではどうですか。**

キリスト教では香典は「お花料」と称して、故人と遺族への気持ちを込めて、受付で渡します。キリスト教で焼香はありません。ただ、クリスチャンが、そうでない人の葬儀に参列する場合は、遺影や棺の前で黙とうをささげるのが良いと思われます。

**「天国へ凱旋する」という言葉を聞いたことがありますが、どういう意味ですか。**

天国は、イエス様を信じて救いをいただいたクリスチャンの大きな希望です。死は決して絶望ではなく、天国への入り口です。

なぜなら、イエス様が十字架で死なれて、三日目に墓の闇を破って、復活されたからです。そのイエス様を信じるクリスチャンは、地上の戦いを終えて、勝利をもって天国に帰ることができるのです。

たとえ今、つらいこと、苦しいことが多くても、よみがえりのイエス様から力をいただいて、地上の生涯を、天国を目指して進んで行くことができるのです。


# 宝塚栄光教会　牧師：岩間　洋

〒665-0021 宝塚市中州1-15-9　TEL:0797-73-6076
E-mail：info@takara-eikou.com　https://www.takara-eikou.com

**礼拝　毎週日曜日**
**10:30～11:40**

**希望のダイヤル**（聖書のお話）
**0797-77-3746**
毎週更新。24時間つながります。
ホームページからも利用できます。
インターネットでも配信中

教会HP　礼拝動画　希望のダイヤル

わたしたちは世界平和統一家庭連合（旧・統一協会）、ものみの塔（エホバの証人）、モルモン教ではなく正統的なプロテスタントのキリスト教会です。お困りの方はご相談ください。



# Glory
グローリー


2026
2月号 222
宝塚栄光教会


## 真理であるキリスト

「分け登るふもとの道は多けれど、同じ高嶺の月を見るかな」と昔の人は歌いました。この世に宗教は多くあるけれども、結局は言っていることは同じだ、という意味です。私も、かつてはそう思っていました。“仏教もキリスト教もイスラム教も、それぞれの教典があり、特徴があり、長所・短所があるけれども、とどのつまりは、私たち人間は絶対者によって救われる、というのが宗教だ”なんて、こざかしい事を言っていました。

イエス・キリストはこう言われました。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。」（ヨハネの福音書14章6節）

初めてこの言葉を聞いたとき、キリスト教とはなんと視野の狭い宗教だろうと思いました。でも、そう考えたのは、真理を知らなかったからです。教会で語られる聖書の言葉を聞き、福音とはこういうものだということがわかってくると、真理はここにしかないと確信させられました。福音の真理です。

福音の真理とは、第一に、唯一まことの神がおられること、第二に、私たちは一人残らず滅びゆく罪びとであること、第三に、愛なる神は、私たちのために、ひとり子キリストを十字架におつけになったこと、そして第四に、私たちは誰でも、このキリストを信じて、罪から救われること、この四点が福音の真理です。

誰もが幸せになりたい、生き甲斐のある人生を歩みたいと願います。そして、様々な努力を重ね、労力を費やします。しかし、本当の幸福は、「道であり、真理であり、いのちなのです」と言われたキリストを知るところにあります。キリストを知るとは、自分が罪びとであることを認め、神様の前に悔い改め、キリストの十字架が自分のためであったと信じて、救いをいただくことです。

私たちの罪のために十字架にかかって死に、よみがえられたイエス・キリストだけが、私たちの救い主です。ほかに救いはありません。このお方のもとにぜひおいでください。決して失望させられることはありません。

## 木瓜（ボケ）　― 早春の庭を彩る ―

木瓜は　春の訪れを知らせてくれる花
まだ寒い頃から　先立って咲き始める
どの花よりも先に　春の香りを放っている
花の少ない時期に　人々を励ますように咲いている

中国原産だが　平安時代には　日本に伝わってきたと言われている
和名のボケは　中国名の読み方の　ボックァモケが転じたもので
ボケに変わったと言われている

木瓜の果実は　洋梨に似た形で　熟してくると　甘酸っぱい香りがする
生食はできないが　ジャムや砂糖漬けにする
また　輪切りにして乾燥させたものは
疲労回復　利尿効果が　期待できると言われている
もともとは　漢方薬として使っていた

夏目漱石の「草枕」に　木瓜の花が描写されている
「木瓜は　面白い花である　～中略～　余も　木瓜になりたい」

こういうわけで　わたしたちもまた
このように　おびただしい証人の群れに囲まれている以上
すべての重荷や絡みつく罪を　かなぐり捨てて
自分に定められている競走を　忍耐強く走り抜こうではありませんか

ヘブル12章（聖書）